

山都町医療 MaaS 事業について

1. 目的

山都町は 544.7 km²と熊本県内 3 位の広大な面積を誇り、県内に無医地区（4 キロ以内に 50 人以上が居住する地区で容易に医療機関が利用できない地区）が 19 箇所あるがそのうち 8 ヶ所が山都町に存在している。医療機関は、山都町包括医療センターそよう病院と 6 つの民間医療機関が偏在している。令和 6 年度には 1 箇所の民間クリニックが閉院し、また 1 箇所の民間病院がクリニック（無床診療所）へ移行されており、その背景には医師や医療スタッフの高齢化や人材不足は深刻な状況があると聞いている。

解決策として医療の効率化を図りたいが、高齢化率が 51.5 %と県内 1 位の山都町は、高齢者の医療ニーズが拡大している。さらに高齢者の免許返納や公共交通機関の減少等により、交通弱者や通院困難者が増加している。そのため、住み慣れた地域で安心して生活ができる基盤として医療 MaaS 事業により専用の車両（以下、車両）で公民館等を巡回し遠隔診療を可能にすることで医療機能の維持を図る。

総合計画：カクゴ③「山の都」での暮らしを守る環境づくり（医療機能の維持）
カクゴ③「山の都」での暮らしを守る環境づくり（地域情報化施策の推進）

2. 事業概要

① 事業内容

- ・医療機器を装備し看護師が搭乗した車両が、患者の集合しているへき地診療所周辺地区公民館や無医地区公民館等に訪問し、看護師のサポートのもと医療機関（へき地診療所）にいる主治医とオンラインでつなぎ、診療を行う。
- ・医師の診察前に搭乗した看護師が、バイタルチェックや診療に必要な情報を聴取し、主治医に伝え診療をサポートします。
- ・診療で使用しない日は、オンライン服薬指導やマイナンバーを活用したヘルスケア事業を行い、「動く保健室」「移動救護車」等としての利用も検討していく。

② 対象地区および対象者等

・診療対象は通院が困難な交通弱者であり、慢性期疾患の患者を基本とする。

1 年目：蘇陽地区のへき地診療所周辺地区および無医地区の住民

2 年目：1 年目の地域＋清和地区のへき地診療所周辺地区および無医地区の住民

3 年目：1，2 年目の地域＋矢部地区の無医地区の住民 と徐々に拡大していく。

- ・ファーストステップとしてオンライン診療による診療をスタートする。そよう病院はへき地診療所の診療に合わせて行う。対象住民の抽出、集合場所となる公民館を決定し実施する。
- ・セカンドステップとして、民間の医療機関によるオンライン診療を追加導入する。実施希望のある医療機関に対し対象住民の抽出、集合場所となる公民館、実施日等を決定し実施する

【対象地区のイメージ】

年度	へき地診療所周辺地区	無医地区
R6（2024年）	東竹原、高辻、高畑、柳、梶原	花上、橘、下山
R7（2025年）	朝日、緑川	木原谷
R8（2026年）		御所、目丸、津留、菅、下矢部西部

③ 事業費

8旅費	旅費(合計)	354,396
	費用弁償	
	連携推進会議町医費用弁償(1,100円+666円)*6回	10,596
	連携推進会議歯科医費用弁償1,100円*6回	6,600
	町医費用弁償(1,100円+500円)*6人*2回	19,200
	普通旅費	
	先進地視察研修旅費 長崎県五島市 53,000円*6人分	318,000
12委託料	医療MasS事業委託料(合計)	39,082,000
	プロジェクト企画推進費用	6,336,000
	プロジェクト運用推進費用	3,178,000
	医療MasS用システム費用(利用料、通信料含む)	5,258,000
	ポータブル医療機器、機材整備	6,490,000
	遠隔聴診器システム利用	1,320,000
	マルチタスク車両	16,500,000
合 計		39,436,396

④ 財源

※委託料のみが交付金の対象

- ・デジタルデジタル田園都市国家構想推進交付金 1/2 (残り1/2は交付税措置の対象)
- ・2年目以降は自主財源となるため、他の補助金等の利用を検討する。

⑤ 推進体制

山都町、町内医療機関、町内歯科医院、熊本県薬剤師会上益城支部 事業者(事業運営等)

⑥ 今年度の事業の計画(実装までのスケジュール)

※年度末までに実装・運用にたどり着くことが求められます！

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	★臨時議会											
A) オンライン診療車の整備	関係団体等との協議											
				仕様検討								
				発注								
										運用テスト	実装	
											実装・運用	
B) 配車/運用システムの構築	関係団体等との協議											
				企画・仕様検討								
				システム構築								
				現場構築								
										運用テスト	実装	
											実装・運用	

3.事業の実施により将来的に実現したい地域像

- ・医療機関の減少に対応し、高齢者の医療機関受診の機会を定期的に確保できる環境を整備することで、病気や介護の重症化を防ぎ、生活の質を維持したまま、山都町に住み続けられる高齢者を維持する。
- ・同時に健康相談などの保健事業や行政の窓口業務などに対応できるよう車両を「動く保健室」「移動行政車」として地域の公民館等を巡回し、住民が役場などに出向く負担の軽減を図る。
- ・低軌道衛星(スターリンク)を活用し、ネット未接続の地域や災害時にも利用できる。